

平成25年1月16日

那覇空港滑走路増設事業に関する新規事業評価の結果について

交通政策審議会航空分科会事業評価小委員会

委員長 家田 仁

沖縄の観光ポテンシャルは非常に大きいですが、那覇空港の滑走路処理能力は限界に達しており、沖縄の地域経済を支える観光需要の増加の容量面の制約となっている。このため、滑走路増設事業により、空港容量を増大させることの意義は大きい。また、空港の滑走路が1本であることがもたらす脆弱性の問題が極めて大きく、空港の強靭性を高める上でも有効な手段といえる。したがって本事業の新規事業化は妥当なものであり、できる限り早期に実現することが必要である。以下は、実施にあたって配慮を期待する付帯意見である。

- (1) 都市に近接した那覇空港周辺の水域には豊かな自然環境があり、自然環境そのものの価値のみならず、自然型観光資源としても極めて重要である。したがって、「環境創造」といった視点に立って、サンゴの移植など環境保全対策について、関係機関やNPOとも協力しつつ、可能な限り努力をすること。
- (2) ターミナル施設の機能向上、利用者の視点に立ったソフト面での施策など空港改善の余地は大きい。空港経営の改善努力等も含め、総合的な戦略を立てて空港全体の機能向上を図ること。
- (3) 沖縄の魅力を更に向上させるため、冬期需要の発掘やビジネス需要の創出、2次交通を含む総合的な交通体系の整備など、地域が主体となって経済との一体的な発展を目指す努力を図ること。
- (4) 事業費の節減とコスト管理には最大の努力を払うこと。そのために、技術革新や工法の工夫、競争原理の徹底、コストのモニタリング等を継続的に行うこと。

以上